



東鍼同窓会だより

東洋鍼灸専門学校 2013年10月発行 第7号



～同窓会の活動報告～

■同窓会事業報告

H25年3月20日(水)

「醫黄集門」第42号 700冊発刊

H25年4月29日(祝日) 午前 相談役会開催

議 題:同窓会の運営について

出席者:三浦勝男 (第2代会長 S35年卒)

橋本慎一 (第9代会長 S40年卒)

塚本此清 (第11代会長 S48年卒)

竹内廣尚 (第13代会長 S45年卒)

宮入隆博 (オブザーバー S34年卒)

天野寛敏・伏見富士子

戸川元志・種田啓子(敬称略)

H25年4月29日(祝日) 午後

13:00 ～ 同窓会総会(事業報告・収支報告他)

14:00 ～ 記念講演会

講師:一般社団法人 北辰会

代表理事 藤本 蓮風 先生

演題:「およそ半世紀に渡る

鍼灸臨床を迎えるにあたって」



■役員会報告

H25年6月18日(火)

東洋鍼灸専門学校素霊記念館にて

H25年卒の新理事を含めた本年度第1回役員会を開催

①役職の決定:新副会長などを決定

②年間スケジュール

③会則の修正(総則第二条)

④同窓会名簿作成の為のアンケート実施

④会長選挙の公示に向けて

H26年度4月29日

(次年の同窓会だよりでアナウンス)

<新役員>

会 長 天野 寛敏 S52年卒

副会長 伏見 富士子 S51年卒

千田 康之 H19年卒

風間 正男 H22年卒

会 計 田 渕 永理 H16年卒

渡邊 記章 H23年卒

飯塚 美紀代 H24年卒

会計監査 桐木 優 H21年卒

加藤 資 H23年卒

事務局総務 種田 啓子 H12年卒

早川 美代子 H16年卒

理 事 田中 裕実子 H23年卒

塚越 吉江 H24年卒

福島 聡子 H24年卒

網野 勉 H24年卒

福本 晋平 H25年卒

藤巻 健司 H25年卒

田宮 大介 H25年卒

柏木 一也 H25年卒

(報告/総務 早川美代子)

常日頃から同窓会活動へのご理解・ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。
心から感謝を申し上げます。

早速ですが、お伝えしたいことが何点かあります。

1. この「同窓会だより」は、住所が確認できるすべての卒業生に送付しています。
同窓会名簿の発刊にあたり、同封したアンケートのご返送をお願いいたします。
新しい名簿の発刊時期は、来年3月の医黄集門送付に間に合わせたいと思います。
アンケートの返送締め切りは準備の都合上、11月20日(水)とさせていただきます。
今回の同窓会名簿はすべての卒業生に送付いたします。よろしくお願い申し上げます。

なお、会費を納入済みであるにもかかわらず、再度、振込用紙が同封されている場合があります。これはシステム変更の不備で生じました。おわび申し上げます。2週間ほどで判明しますので、どうぞご安心ください。(6月11日～7月16日の間 約10名分です)

2. 現在、毎年開催される「同窓会総会」への参加卒業生は減少しています。
古里である母校を訪れていただき、恩師や同窓生、先輩・後輩の交流を深め、さらには次世代を担う若手の活躍をサポートするためにも、是非とも御参席くださいますようお願い申し上げます。お待ちしております。
3. 来年の同窓会総会「記念講演」は、基調講演とシンポジウム形式でおこないます。
基調講演は ①薬学部を卒業し ②鍼灸を学び ③さらに医師としてご活躍されている一般社団法人日本統合医療支援センター代表理事:織田 聡先生をお招きします。

先生は、日本の統合医療を確立するためには鍼灸師・マッサージ師が必要不可欠と考え、すでに①医療連携のための独特な研修会の定期的開催。今後は②タッチパネル式問診票と受療者の評価項目を取り入れた電子カルテの作成(これは鍼灸の有用性を示す元になります。) ③統合医療を推進する医師との連携を構築中です。

シンポジウムでは我が校の卒業生3名に業団体を牽引する立場から「次世代の鍼灸ビジョン」と題し、関連したお話しをしていただきます。いま現在、鍼灸マッサージを業とする資格者の業団体加入率は頭打ちです。行政の施策には業団体の意思統一した請願や構成人員数が影響力を持ちます。それをサポートするためにも、ほかの伝統校をはじめとした同窓会関係者や、他の業団体にもお知らせし、ご参加をつのりたいと思います。詳細については、同窓会だより8ページをご覧ください。

以上、同窓会費の納入も含めまして、何卒、よろしくお願い申し上げます。



附属臨床施設が新しくなりました！

この春よりスタッフが交代し新しい体制となりましたのでご報告いたします。また、臨床実習についてもご紹介させていただきたいと思ます。

平成17年に開院した当施設ですが、本年度からシステムや料金なども変更し、より良い臨床実習施設を目指しています。

現在の運営スタッフは全員が当校の専任教員です。また、今年度からあらたに始まった卒後研修の研修施設としても運営しています。



<ごあいさつ>

この春より臨床実習施設の施設長を申し付かりました奥住知子と申します。平成10年に鍼灸あま指科屋間部を卒業しました。一昨年まで7年ほど浅草橋にある新設校の教員をやっておりましたが、この春母校に戻り、専任教員として勤務させていただいております。まだまだ学ぶことばかり、浅学菲才の身ではありますが母校のために働ける喜びを心から感じております。同窓生の皆様、なにとぞご指導のほどよろしくお願いいたします。

東洋鍼灸というとやはり『鍼灸治療』がクローズアップされると思いますが、私自身は手技を中心とした施術をしております。在学中より小守スポーツマッサージ療院に勤務し、井上良太先生のご指導のもと運動選手やダンサーなどの施術をさせていただいてきました。そのほかがん性リンパ浮腫の患者さんのためのリンパドレナージュや、オイルマッサージなども行っています。

施設長として施設の運営のほか患者さんの施術、卒後研修生の指導を行っております。また、後期からマッサージの授業を担当させていただいております。

在学中には故柳谷正子理事長をはじめたくさんの素晴らしい先生方に手技をお教いただきました。その綺羅星のような先生方には及ぶべくもありませんし、そもそも比べるなんて恥ずかしくすぎてできませんが、学生さんたちに少しでも手技療法の面白さを知っていただきたいと日々努力しています。

『臨床の東鍼校』

東洋鍼灸といえばやはり高い技術力をもった卒業生をたくさん送り出しているということが最も大きな特徴だと思います。その高い技術力を保ち続けるために教員一同が研鑽をしています。

鍼灸学校を卒業後そのまま教員養成課程にいつてしまうとしっかりした臨床技術がつかないまま教員になってしまいます。国家試験の難易度が年々上昇している昨今においては、教員に求められる知識や教育技術レベルも年々高まっています。業務時間の多くを授業や国家試験対策、学生への個別の指導などに取られてしまうというのが現状です。

しかし、東洋鍼灸の教員であるからにはやはり治療技術の研鑽が必須です。座学だけでなく、実技においてもしっかりと技術と経験を持った教員になるべく、臨床実習施設で精進しています。

教員自らが施術

臨床実習施設は、学生が学用患者さんを施術するための施設ですが、授業時間外では外来の患者さんを受け付けています。昨年度までは専属のスタッフがおりましたが、今年度からは教員が外来患者さんの施術を行っています。授業を担当しながら、実際に患者さんを施術するというのは大変なことですが、やはり鍼灸学校の教員であるからには実際に患者さんを施術できる技術レベルがなければと思っています。

また、学生さんたちは何よりも『現場の話』を喜びます。生理学や解剖学、経絡経穴の授業の合間に患者さんの話をすると、今までちょっと眠そうだった学生さんの目がキラリと光ってきたりするという効果もあります。今学んでいる知識が机上の論理で終わることなく、実際に臨床の現場で役に立つということが学生さんたちの勉強へのモチベーションの向上にもなると考えています。

ベテランの先生方に学ぶ

昨年度に続き、今年度も私を含め新しい専任教員が入学(?)いたしました。東鍼校卒業生だけでなく、ほかの学校からの卒業生もおります。若手教員はどうしても臨床経験が浅いものです。それぞれに講習会に参加したりしていますが、せっかく著名な先生方が非常勤としてお越しになっているのでその機会も見逃せません。

今年度より竹内校長の指示のもと、定期的にベテランの先生方に直接実技を学ぶという大変ありがたい機会を作っていただいております。臨床実習施設の治療室に先生方をお招きして実技をお教えいただいているのですが、講習会のような大人数ではなく、卒後研修生と教員だけの極めて少人数で行われる贅沢

な勉強会です。若手の教員はベテランの先生方の一挙手一投足すべてに感心するばかりです。『お給料を頂いてこんな贅沢をしていいのかなあ?』という冗談が教員の間でやるほどです。

書籍や講習会、学会などでお見受けする先生に直接習えるというのは本当にありがたいことです。この貴重な経験を自分たちの糧とし、学生さんたちに還元できるよう頑張っています。

教員同士の勉強会

さまざまな学校から集まってきた教員ですから、学んできたこともそれぞれ違いがあります。東洋鍼灸以外の学校ではどんなことを教えていたのか、定期的に集まって勉強会をしています。中医学が得意な者や美容鍼灸が得意な者、それぞれの持つ技術をお互いに教えあっています。

私自身は自分の在学中に東洋鍼灸で学んだことなどを他の教員に話したりしています。在学中にどんな先生がいらっしゃったのか、どんなことを教わってきたのかを実際に鍼やもぐさを持ちながら話したりしています。『えーっ、東洋鍼灸ってそんなことまで教えていたのですか～!?』などと驚かれることもしばしばです。(入学した1年生の春に難経を読むなんてわが校だけだったようです。)

鍼灸の勉強のほか、電気医療機器の勉強もしています。遠赤外線や超音波治療器、光線療法の機械も臨床実習施設に置いてあります。鍼灸治療以外に今世間にはどんな治療法があるのか、どんな治療が求められているのかを知ること大切だと考えています。実際にそれらの機器の効果を体験するのはとても勉強になります。



そもそも、臨床実習ってなんですか？

臨床実習施設は『臨床実習』という授業を行うための施設です。3年生の実技科目なのですが、学生が実際に患者さんに鍼やお灸をするという授業です。

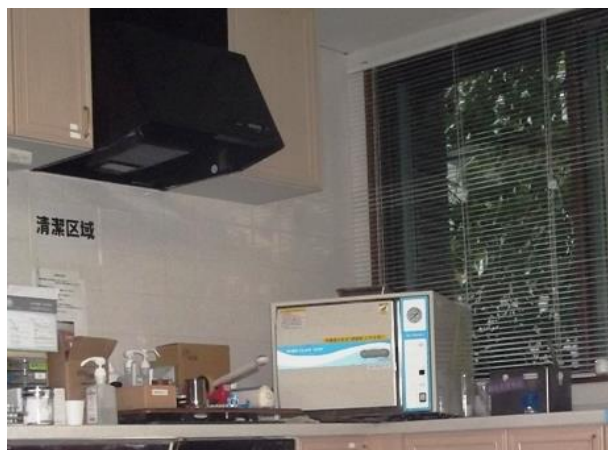
平成元年のあん摩マッサージ指圧師、はり師およびきゆう師にかかわる学校養成施設認定規則の一部改正に伴い、指導要領の中に臨床実習に関する事項として『一般患者に対する臨床実習の機会を確保し、技術

等の向上を図るため、附属の臨床実習施設において臨床実習の教育を行うこと。』という文章が盛り込まれました。実際の運営は平成10年ごろからですが、各校ともこの臨床実習の運営には苦勞しているようです。

わが校でも約7年前から臨床実習を開始しました。学生の施術用の患者さんの確保、学生への技術指導、安全管理、接客教育など、実際の治療院を運営するよりも大変なのでは?と思うこともしばしばです。しかし、学生にとってはとても大きな学びの場です。

東洋鍼灸の学生の大きな特徴の一つが『大人の学生さん』が多いことです。10代～20代で入学した学生ならば卒業後何年か治療院に勤務してその後開業という道がありますが、50～60代の学生さんはそうはいきません。卒業後なるべく速やかに開業をしたいという学生さんにとって臨床実習で実際の患者さんを施術できるというのはとても貴重な機会です。

他校では臨床実習施設自体が未整備なところもあるようです。しかし、わが校においては独立した建物があり、治療院として機能している空間で学生さんが施術をします。限りなく現実に近いシミュレーションと言ってよいと思っています。ここまで整備された環境で臨床実習が行える学校は多くありません。伝統あるわが校の新しい魅力です。



ここで小さな失敗を

学生さんたちはこれ以上ないくらい一生懸命の施術を患者さんにしています。しかし、時には小さな失敗をすることもあります。オーバードーズで具合を悪くする方が出たり、刺鍼によりあざを作ってしまったたり。学生さんたちはひどく落ち込みますが、そんな時こそ学生さんは大きく学んでいます。卒業後、一人で開業したときに患者さんに対し失敗してしまったら対処するのは自分一人です。しかし、臨床実習中の失敗は教員のフォローもありますし、クラスメイトからの意見を聞くこともできます。現場に出た時に起きてしまうかもしれないミスを在学中にすることで、少しでもリスク回避をしてほしいと考えています。

そして、これらの小さな失敗以上に大きな学びが臨床実習にはあります。それは患者さんからいただくアンケートです。学生さんの施術後に患者さんを書いていただくのですが、学生さんへの応援や感謝の言葉が沢山並らべ

られています。このアンケートの言葉に学生さん達は本当に励まされます。患者さんに喜んでいただくことは治療家という仕事のなかでもっとも大きな喜びのひとつだと思います。それを在学中に経験できることが臨床実習を行う最大の収穫なのではと考えています。

学生というのはややもするとただ漠然と学生生活を送ってしまいます。しかし3年生というのは卒業してしまうと患者さんから『先生』と呼ばれてしまう立場です。学生時代は教員や学校になにかをしてもらったりするのが当たり前と感じてしまいましたが、自分が先生となったからには今度は自分自身が与える側になるわけです。治療というものがどれだけの練習と勉強、心遣いによりできているのか、その一端を少しでも学べるのが臨床実習という時間です。

外部の患者さんを受け入れ、学生に施術を行わせるというのは学校にとってとても大きなリスクだと思います。万が一の事故や患者さんからのクレームなど、不安要素は沢山あります。しかし、それらを補うに余りある学びを学生さんが得られるのです。卒業、学生さんたちが少しでもはやく一人前になれるよう、臨床実習担当教員一同がんばっています。

卒業研修も始まりました

今年度より卒業研修を始めました。男性3人、女性2人の合計5人が学んでいます。5人中4人が私よりも年上というのがいかにも東洋鍼灸の卒業教育だなあと思っています。人生の先輩たちではありますが、治療の上ではこちらのほうがいくらか先輩です。鍼の打ち方から治療の組み立て、患者さんへの接遇など教えたことは沢山あります。

患者さんからかかってきた電話の受け答えに始まり、患者さんの迎え入れから送り出しまで、治療家として必要な知識や技術は山ほどあります。それらを複数の専任教員がさまざまな角度から教えています。教室では教えきれなかったことや、自分が実際に患者さんと対面してからでないといけないことなどを卒業研修では学んで欲しいと思っています。

また、ベテランの先生方から直接技術を学べるのも卒業研修の大きな目玉です。齋藤鳳観先生、石原克己先生、大浦慈観先生による特別講座を定期的に関講しています。実際に患者さんをお招きしての講習はより実践的で治療の本質に迫るものです。

まだまだ1年目の卒業研修ですから、来年以降どうなるのか不確定要素も沢山あります。どういう研修のあり方が良いのか、これからも研鑽していこうと思っています。

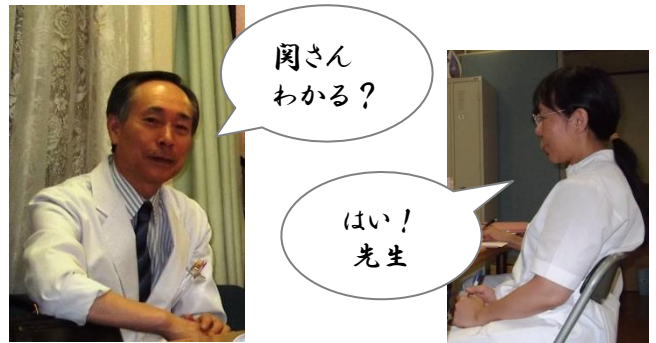
卒業教育



～研修生からのメッセージ～

こんにちは。研修生の関です。この3月に鍼灸科を卒業しました。将来的には開業したいと思いながらも卒業後の進路が定まらないまま迎えた3月、そこに届いたのが卒業教育のお知らせでした。今年からスタートの卒業教育。具体的内容は今ひとつわからない・・・でも、もしかしたらここで臨床経験が積めるかもしれない。試行錯誤しながら自分に合った形をみつけていけるかもしれない。やってみなければわからないではないかと思いつき、卒業教育を受けることにしました。

さてその内容ですが、4月からのすべてを振り返るととても書ききれない。それは、附属臨床施設そのものが今年から大きく変わったため、先生方は、諸々の設備や物品の整理をしつつ、患者さんを受け入れる体制を整えつつ、授業をし、治療をし、実習の体制作りをし、と目のまわるような日々。研修生4人も自分たちにできることを手伝いつつ、まずは居場所を作っていました。



附属臨床施設の施設長の奥住先生、副施設長の市川肇先生は毎日施設に来て治療をされています。その忙しい時間の合間を縫って、あるいは無いはずの時間を工面して、鍼の打ち方や体の診方などを教えていただいたり、治療の見学に入らせていただいたりしています。決まった曜日に施設に来られる尾上先生や市川篤先生も、治療予約の無いときには、快く私たちの治療の練習に体を貸して下さいます。そうしたことは研修プログラムには明文化されていませんが、いつの間にかみんなが助け合って高めていくような空気ができてきて、



気が付くとこの半年でとても沢山のものを、多くの方からいただいたのを感じます。

約半年弱の間に、はじめはベッドを借りて知人の治療を行い、そこに知り合いの学生さんが加わり、今は、臨床実習の協力患者さんや外部からの患者さんまで治療をさせていただいています。治療法は、これまでの授業、勉強会、この施設で教えていただいたことなどから、自分にできることを自分なりにしています。あるとき奥住先生に「浮き輪付きで泳いでみない？」と言われたことが心に残っています。それは、私が研修を受けるにあたって望んでいたことでもありました。まずは受付から問診、施術、送り出しの流れを自分でを行い、少しでも効果を実感していただいて快くお帰りいただくという経験を、臨床施設の中で積み重ねていきつつあります。技術や知識がまだまだなことは確かですが、見知らぬ方に鍼を打たせていただくというスタートラインには立てたかなという気がします。

卒後教育のもう一つの柱として、齋藤鳳観先生、石原克己先生、大浦宏勝先生による月に一度の研修があります。これもどのような形で行うかは未定のままはじまりましたが、今は患者さんを実際に治療していただきながら、脈診、触診などをし、治療についての質問を受けていただいたりしています。自分が定期的に診ている患者さんを診ていただく場合もあり、とても貴重な学びの時間です。少ない人数の研修生のために時間を割いていただき、研修に熱意をもって関わって下さる先生方の姿にとっても大きなものを感じ、ここでの経験は私の将来の大切な心の礎です。

来年度以降の卒後教育がどのようなものになるのかわかりませんが、授業とは違いとても有機的なもののような気がします。臨床家になりたい、という強い思いがあれば、きっと何かが返ってくる。そんな気持ちで今を享受しています。



新任講師を紹介します

みんな頑張れよっ！



井上 良太先生
(いのうえ りょうた)
実技授業 & 校長補佐



奥住 知子先生
(おくすみ ともこ)
附属臨床施設長
実技系授業を担当
趣味：料理、旅行
座右の銘：
Love & Peace



瀧口 定広先生
(たきぐち さだひろ)
生理学、リハビリテーション医学、実技授業担当
趣味：音楽
座右の銘：
最大多数の最大幸福



舘野 ひろみ先生
(たての ひろみ)
生理学、実技授業担当
趣味：寝る&食べる
座右の銘：
為せば成る 為さねば
成らぬ 何事も



市川 肇先生
(いちかわ はじめ)
附属臨床施設
副施設長
実技系授業を担当
趣味・特技：自転車
(23区内移動可能)
野球 (バントが得意)
座右の銘：
努力は報われる

同窓会の先生のみなさま、いつもご協力を有難うございます。同窓会の先生が中心になって主宰する研究会が現在16届いております。研究会の治療法を学生の皆さんに見せて頂きたいと計画を立てておるのですが、まだすべて整っておりません。これから会ごとにご挨拶に伺ってご相談したいと思います。是非ご協力をお願い致します。そして鹿児島市の先生から活動報告が届いておりますので掲載させていただきます。

活動報告

私は1985年(昭和60年)より鹿児島市にて開業し現在に至っておりますが、2008年(平成20年)5月より、鍼灸の有資格者を対象に「鍼灸実践塾」を開講し、翌年より、鍼灸・気功・整体「実践経営塾」と名前を変え、今年で6年目を迎えました。

今年度までの塾への入会者は50名を超えていますが、その内10数名の勤務鍼灸師が県内外にて独立開業しております。今年度も19名が在籍し、その内14名は開業鍼灸師で、毎回実践的な治療技術を学んでいます。技術内容としては、気功法を取り入れた奇経調整、太陽創健法をもとに独自に編み出した整体術、そして中医理論やトリガーポイント理論に基づいた鍼灸術を3本の柱として、塾生が互いに治療し合う実践主体の学習方法を採用しています。

特に、奇経調整については、開講当初は奇経八脈の代表穴を手足交差して刺鍼し、鍼柄を軽くつまんで気を流し、体の歪みや圧痛、脈状などを改善するという方法を採用していましたが、次第に鍼を刺さずに指先をツボに当て指先から直接、気を流す方法に変わってきました。

さらに昨年あたりからは指先を皮膚に触れない外気功的な方法に変わりましたが、現在私は自分の臨床において、皮膚に触れずに鍼先から気を放出する気功鍼あるいは空中鍼と呼ばれる方法を採用して良い結果を出しています。私自身もともと気感覚が良い方ではありませんでしたが、訓練により気感覚が徐々に高まって外気による治療ができるようになって来ました。3年以上の塾生は、ほぼ全員指先から気を放出して奇経調整ができるようになっていきますので、誰でも訓練により、気感覚が強まり、治療に応用できるようになると確信しています。

以上、私の現在の活動報告といたします。

平成25年9月

鍼灸・気功・整体「実践経営塾」塾長 村松輝久(本科・昭和54年度卒業)
〒891-0141 鹿児島市谷山中央3-4601-1 電話&FAX 099-269-7498

東洋鍼灸は先輩の皆様の教えを受け継ぎ「実技の学校」を目指して頑張っております。先輩の先生方のお力をお借りしたいと思います。よろしくお願い致します。

東洋鍼灸専門学校 校長 竹内 廣尚

訃報

柳川 唱徳先生 (享年63歳) 本校 元職員(事務担当) 同窓会編集委員
H25年6月16日 ご病気の為永眠されました。

金古 英毅先生 (享年69歳) 本校 非常勤講師
H25年9月7日 ご病気の為永眠されました。

故人のご冥福をお祈りし、謹んでお知らせいたします。

同窓会総会ならびに「記念講演・シンポジウム」ご案内

同窓会総会

日時:平成26年4月29日(祝日・火) 13:00～

会場:本校第2校舎3階講堂

記念講演

14:00～(総会終了後に開始いたします)

テーマ:「日本型統合医療の理念・鍼灸師と医師との連携」「次世代の鍼灸ビジョンを語る」

懇親会:17:00～ 会場未定 「医黄集門」でお知らせいたします。

記

タイムスケジュール

基調講演

14:00～

司会 風間正男

テーマ:「日本型統合医療の理念・鍼灸師と医師との連携」

一般社団法人 日本統合医療支援センター 代表理事 織田 聡 先生

(演者ご紹介:①医師 米国アリゾナで「統合医療」を学ぶ ②薬学部卒 ③鍼灸を学ぶ)

織田先生の日本における「統合医療の確立」に向けた活動は「鍼灸師・マッサージ師」が基軸となります。いま「電子カルテ・通信端末ソフト」を作成中です。その頒布金額を安くするためにもホームページをご覧の上「(IMSS)仮申し込み」をしていただければ幸いです。

(本申込みとは別。料金は発生しません。) <http://www.jscim.or.jp/index.html>

14:30～ 質疑応答

シンポジウム

テーマ:「次世代の鍼灸ビジョンを語る」

座長 天野寛敏

14:40～ 1. 公益社団法人 日本鍼灸師会

副会長 小松秀人 先生

14:50～ 2. 公益社団法人 日本鍼灸師会

副会長 大口俊徳 先生

15:00～ 3. 公益社団法人 東京都鍼灸師会

会長 高田常雄 先生

15:10～ 質疑応答・ご意見ご提案等{質疑への忌憚ないご参加をお願いいたします}

16:00頃 終了予定

17:00～ 懇親会

* シンポジストは変更する場合があります。
詳細は「医黄集門」でお知らせいたします。

東洋鍼灸専門学校 同窓会だより 第7号

発行日:平成25年10月1日

発行者:東洋鍼灸専門学校同窓会

会長 天野寛敏

編集:「同窓会だより」編集委員

事務局:東洋鍼灸専門学校内

〒169-0073 東京都新宿区百人町1-4-4

TEL:03-3209-5436 FAX:03-3209-5569

E-Mail : doso@toyoshinkyu.ac.jp